

No.30	◆入所児童の親権者(親)が、自分の子どもとの面会をするため施設に訪問した際、自分の子ども以外の児童と積極的に関わろうとする。自分の子ども以外の児童と遊んでくれるのはよいが、抱っこしたり、肩ぐるまをするなどの際、他児童がけがをするのではと心配。親は純粋に好意でしているようだが、今後は何らかの対策が必要である。
No.31	◆親権者(母親)の精神疾患、精神的に不安定なことから入所しているのに、精神的に不安定なまま面会・外泊を要望して入所児童への影響が大きいので、児童相談所職員の説明と説得で面会・外泊を制限した。
No.32	◆施設に許可なく帰省や、外出をさせようとする。(親、入所児童だけで連絡を取り合う)
No.33	◆経済的に厳しい状況であるのに、借金してでも入所児童を帰省させようとする。施設側の指導にもなかなか乗らない。
No.34	◆入所児童が部活に行っている途中に待ちぶせして、児童を部活に行かせず自宅へ連れて帰る。
No.35	◆参観日や学校行事以外で学校に無断で行き、入所児童の様子を見たり、学校にクレームをつける。施設側からは、「施設を通して」と指導しているが、指導に乗らない
No.36	◆校区内に親権者(親)が住んでいて、週末帰省ができていたが、平日の夕方におやつなどを持ってきて面会をする。入所児童は宿題もなかなか終らず、夕食にも影響がある。児童の生活リズムが少しずつ遅れてくる。
No.37	◆精神疾患がある親権者が、面会時に入所児童に対して不適切な発言や、支離滅裂な脈絡のないことを言われるので、入所児童が不安に感じている。今のところは面会等の積極的な働きかけは行わず、回数もできるだけ少なくしてもらっている。
No.38	◆親権者(精神病の母親と父親)は、入所児童の目の前で性的行為があるなど、児童に不適切な環境にあるため、児童相談所と相談して外泊の制限をしたところ、母親が怒って施設に来て、子どもを強引に連れ去ろうとした経緯がある。現在は母親の状況を確認しながら外泊を許可しているが、児童にとっては回数の制限が必要と思われる。
No.39	◆毎日とは言わないが、あまりにも面会・外泊が多い親権者が存在し、施設からの要望は受け入れない。その児童は、どうしても施設や学校生活が落ちつかず、勝手に中途半端な意志で児童引き取りの意志を伝えようとするため、生活が浮き足立っている状態である。他児童とのバランスもあるので、面会・外泊の回数を控えてもらうように伝えるが、理由づけしたり、児童相談所に苦情が行ったりもする。飲酒しながらの電話で「子どもを帰省させろ」「返せ」とかの暴言もたびたび生じている。
No.40	◆入所児童の意思も確認し、職員同席の上、面会をしてもらっているが、帰省および外出時に、帰省先でのDV、飲酒などによる不適切な関わり、反社会的行為などの教唆、黙認がある。
No.41	◆学校があるにも関わらず、親権者(母親)が学校を休ませ、「子どもを外泊させる」と言った。職員も母親を説得したが聞き入れず、学校を休ませ、外泊してしまった。
No.42	◆親権者(母親)が学校帰りに無断で児童に会い、子どもにテレクラに電話をかけさせ、知り合った男性と会っていた。また、母親は男性との不適切な関わりを児童に話している。
No.43	◆親権者である母親が精神障害を患っていて、父親に対して暴力的行動をとり、また、入所児童を連れて家出を繰り返すなどの経過があった事例。家出中に入所児童との自殺企図もあり、入所後は児童は母との面会を拒否しているが、母は施設の玄関先で児童との面会を要求し、応じないと暴言などの行動が激しい。

No.44	◆母親が子どもとの面会、外出等を希望し、子どもの前でわめく、自殺未遂をする等。
No.45	◆刑務所に収監中の父親から、入所児童に手紙がくるが、「不良になりなさい」といった内容が書かれており、児童の福祉に反するもので、対応を検討している。
No.46	◆虐待した父親に対して、児童相談所が接近禁止的な話をしてたにもかかわらず、施設の近くに来て入所児童のようすをうかがっていたことがあった。(会うまではしなかったが)察知した本児がやや不安定になっていた。
No.47	◆離婚調停中で、父親が親権者(予定)、母親が子どもの運動会のようすを見に来て、陰ながら見ることで許可したが、約束を破って子どもに声をかけてしまい。その後父母でトラブルがあった。
③ 親などとの関係で、職員が困難を生じる例	
No.48	◆親権者でない父親が、施設職員に対して威圧的態度を頻繁にとり、職員も苦慮している。
No.49	◆中学卒業前に自動車を盗み、鑑別所に入所した親権者(父親と母親)が結婚して出生した児童。父親の飲酒による暴言で苦慮した。
No.50	◆暴力的な親権者とその関係者が、毎日ではないが頻繁に電話や来所があり、施設に対する不満と暴言、また他の入所児童に対しても関わりを持つとする。
No.51	◆親権者が精神科へ入院しているが、頻繁に電話をかけてきて、入所児童への無理な注文を行っているため、入所児童自身が困惑している。以前、毎日のように施設へ来所し、児童のことや施設のこと、また自身のことを長く話をする(2~3時間)親権者があり、職員も対応に困っていたが、それ以上に当該児童も嫌な思いをしていた。
④ 解決に向けた方向性にいたった(いたりつつある)事例	
No.52	◆母子家庭で、3人きょうだいが入所している。親権者である母親は相談もなく面会に来たり、入所児童を家へ連れ帰ったりする。時には下校時に学校から直接連れ出したりする。そのため入所児童たちも落ちつかなくなり、再三にわたり母親に面会や一時帰省について約束を守るようにうながすが、なかなか改善にいたらない。児童相談所の担当者にも参加してもらい、母親との話し合い、当該児童との話し合い、母子を交えての話し合いを実施する。その中で面会や外出に関しては話し合いで決めた通りに実施していくことを母子ともに了解し、今のところ改善されている。
No.53	◆親権者である母親がアルコールを飲んで面会に来る。母親はきょうだい間を区別しており、入所児童の前でもそのことを口にする。入所児童が幼稚園に通いはじめたことで、幼稚園の行事に参加をしてくれ、少しずつ母子の距離は近づいたようにも思われる。飲酒をしての施設来訪は断ると伝えている。

【事例2】子どもの施設入所中、子どもの生活（日常生活、医療、予防接種、公的手続き等）に関して困難をきたした具体的な事例	
①	子どもの身だしなみ、生活等について
No.54	◆親権者が、入所児童の髪型について「(子どもの)長い髪が似合うので短く切らないで欲しい」「(施設に来訪する)美容ボランティアのセンスがない」という。
No.55	◆親権者が、入所児童の髪型について細かく注文をつけてくる。外泊の際、児童の髪を茶髪にする。
No.56	◆入所児童の髪を切った後、親権者から苦情があった。その後、その児童に限っては施設内で髪を切ることができなくなった。
No.57	◆髪を切ること自体は良いのだが、親権者から「長いほうが似合うから伸ばしてくれ」などの要求はある。
No.58	◆前髪が目に入りそうになっている児童の同意を得て理髪店に連れて行き、散髪したところ、親権者から外泊の迎え時に「前髪を切った」と苦情をいただいた。その後は親権者に任せ、施設では当該児童の髪をゴムで纏めている。
No.59	◆親権者が、入所児童の髪を施設で切ることを嫌がり、「自分で美容院へ連れて行く」というが、なかなか来てくれない。
No.60	◆入所時に親権者に確認したときは、「子どもの髪は子どもの希望を聞き入れて欲しい」ということであるが、施設のルールで承知ということになる。しかし、面会回数が重なってくると、入所児童の希望する長髪にすることを代弁する親権者が出てくる。なかなか髪を切ることができなくなっている。
No.61	◆入所の時から、髪が長いので髪を切ることを親権者に話すと「切らないで」という返事。髪が長いとかわいいというイメージを持っている。幼稚園・小学校に入り、水泳があることや入所児童自身も「髪を切りたい」という気持ちを持っていることを伝えても拒否される。
No.62	◆「子どもの爪を切ってくれない」「〇〇指導員・保育士の対応が悪いのでこんな施設に子どもは預けられない」「子どもを乱暴に扱う施設は問題」「訴える(洗濯物干しの時に洗濯カゴに入れて子ども達を遊ばせているの見て)」。直接、児童相談所や県の出先機関の担当課に電話して苦情を申し出ることがあった。その際の対応は連携しながら行って解決できた。
No.63	◆親権者である母親は、総合失調症だが病識が薄い。自殺企図があり、乳児院に入所、満齢のため児童養護施設に措置変更、乳児院入所当時より入所児童の髪を切ることを強く拒否、面会時にも当該児童を人形のように扱うことがあった。措置変更後も、長髪は入所児童自身が身辺自立していく上で障害にもなるし、自我が芽生えてきて、児童のために長髪を違和感を覚えるようになったため、髪を切る許可を求めたが、再び拒否。そのうち母親の病気が悪化し、入所児童を無理矢理連れて帰ろうとしたり、意味不明の言動や職員への理不尽な要求などがあった。
No.64	◆親権者の要望により、当該入所児童の髪はしかたなく切らずにいた。
No.65	◆女子入所児童の髪型・服装について、母親の趣味・好みを主張され、当該児童との親子トラブルが発生する。
No.66	◆入所幼児が外泊からモヒカンヘアーで帰園。親権者は「幼児本人が同意した上で切ったので、そのままが良い」と主張する。
No.67	◆親権者が、「我が子は日光に弱いから」と、学校のプール授業に参加させない。

No.68	◆親権者が出所後、入所児童が希望し入部していた地域の少年野球クラブについて「学校の成績が悪いから」という理由で一方向的に退部させようとし、トラブルになった。
No.69	◆中学生の男子に毎日日記を何ページも詳細に書くよう強制。それができないと、施設に来て入所児童に暴力をふるう親権者がいた。
No.70	◆父親に精神疾患があり、思い通りにならないとさまざまなことを繰り返す。例えば、子どもの通学用カバンに、自分が信仰しているお守りを付けるよう要求するも、子どもの学校ではキーホルダーの数を制限しており、子ども自身が「自分の好きなキーホルダーを付けたい」と希望した。その際、父親は何ヶ月にもわたり、1日何十回と施設に電話したり、面会を行うなかで、子どもに父親自身の主張を要求した。
No.71	◆幼児(5歳)に、「習い事など多くやらしてくれ」と何度も要望してくる母親がいた。
No.72	◆親が、小5の入所児童に「学習塾に行かせてくれ」と要望。施設では「学習塾に通わせるのは中学生以降にしている」と何度も話をするが納得せず、親は児童相談所や行政(本庁)へも訴えたりした。最終的に、親が依頼した弁護士と児童相談所で、「本児の意向で、どうしても学習塾に通いたくないという意味を確認してもらい」納得してもらった。
No.73	◆親が「学校の教育方法が悪い」とか「いじめられている」など、学校に直接クレームをつけ、学校は「施設入所中であり、施設とも話をしてクレームを持ってきてほしい」と親に話をするが、「親は私なんだから」といって、学校としても対応に苦慮するケースがあった。
②	通院、予防接種、医療等について
No.74	◆通院をすぐしない、「医者が信用できないので病院を替えてほしい」「〇〇病院に転院してほしい」
No.75	◆中耳炎の手術をする予定だが、親権者と連絡がとれず、同意が得られない。
No.76	◆入所児童の精神科への入院が必要であると児童相談所、施設で判断したが、親権者(父親)が非協力的で病院まで来てくれず、入院できなかった。
No.77	◆親権者が入所児童の新型インフルエンザ予防接種を拒否した。
No.78	◆親権者が予防接種は同意したが「タミフル」服用については同意を渋り、最終的には事故の場合の責任をとることを条件に承諾した。
No.79	◆予防接種を拒否することはないが、連絡が取れないのでなかなか同意が取れない親権者がいる。
No.80	◆精神で入退院を繰り返している親権者(母親)が、入所児童の精神科への通院、投薬、心理士によるカウンセリング等を拒否した。
No.81	◆入所児童の精神科への通院・入院に反対する親権者に対し、繰り返し説得したが、拒否は続いた。このため、入院はあきらめたが、子どもの病状は悪化した。結果的に施設変更になった。
No.82	◆児童福祉法28条(虐待)による措置児童の予防接種に際し、親権者が関与してくる例(現在、措置児童相談所と連携で対応している)。
No.83	◆入所児童の統合失調症の治療に対して、親権者が治療拒否(児童相談所と連携して調整中)。